

岩手県地域公共交通計画（案）における素案からの主な修正点等について

岩手県地域公共交通計画の素案に対する法定協議会や地域別部会での御意見、パブリック・コメントの結果等を踏まえ、下表のとおり修正したものであること。

番号	意見（概要）	関連 ページ	修正点
1	<p>課題 1 の 2 点目の利便増進計画の特例措置に関する記述※について、利便特例の活用ありきで路線再編を行うことを推奨するかのような誤った受け止められ方をすることがないよう修正できないか。（東北運輸局）</p> <p>※ 「地域公共交通利便増進実施計画を策定した場合、バスの国庫補助の様々な特例措置を受けられることから、地域の実情を踏まえ、市町村においてその策定に努める必要がある。」</p>	116	御指摘を踏まえて、該当部分の記載について「地域の実情や将来像を踏まえた公共交通ネットワークの構築に当たり、地域公共交通利便増進実施計画の策定やこれに伴う各種の特例措置の活用も視野に、地域公共交通計画の策定に努める必要がある」に修正。
2	<p>運転士確保について、市町村でのタクシー運転士の確保や、地域主体で運行する場合の運転手の確保などが大きな課題となるため、タクシー等の運転士確保についても記載できないか。（滝沢市、平泉町、岩手県タクシー協会）</p>	140	御指摘を踏まえて、事業 4（運転士確保策に対する支援）に、市町村によるタクシー等の運転士確保の取組、県による市町村の運転士確保のための普及啓発等の取組に対する支援を追記。
3	<p>公共交通スマートチャレンジ月間の認知度が低いのではないか。地域公共交通を維持し、利用促進につなげていくためにも、利用することがどのような利点になるのかを周知する必要がある。（パブリック・コメント）</p>	142	御指摘を踏まえて、地域公共交通に対する県民の意識醸成・関心の更なる向上を図るため、事業 7（公共交通利用の意識醸成）に、公共交通スマートチャレンジ月間の参加企業や実施期間の拡大等に併せて、効果的な周知を実施することを追記。

【参考】岩手県地域公共交通計画（素案）に対するパブリック・コメントの実施結果

1 意見募集期間

令和5年12月27日（水）から令和6年1月26日（金）まで

2 実施方法

- (1) 閲覧場所：県庁行政情報センター、各地区合同庁舎行政情報サブセンター、県庁県民室、県立図書館、県公式ホームページ
- (2) 資料入手：県庁行政情報センター、各地区合同庁舎行政情報サブセンター、県公式ホームページ
- (3) 意見等受付方法：郵便、ファクシミリ、電子メールによる意見募集

3 意見等の件数

意見提出人数	意見件数
5人	8件

4 寄せられた意見等への対応

番号	意見（概要）	検討結果（概要）	対応
1	<ul style="list-style-type: none"> JR 大船渡線(狛鼻溪駅)は Suica が使えず、トンネル等で携帯電話が圏外となるため、通学生が有効に時間を使えるようにしてほしい。 JR 大船渡線駅沿線にパーク＆ライドできる駐車場を整備してほしい。 一関駅と高速バス一関仙台を雨や雪に濡れずに行き来できる屋根付きロータリーを整備してほしい。 岩手県交通の千厩盛岡線を再開してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 利便性の高い地域公共交通ネットワークの構築に向け、接続拠点の形成や乗り継ぎ環境の整備、利用促進策の実施、交通系 IC カードの導入等に取り組んでいく。 個別具体的な施設の整備等の要望は、関係事業者に伝達する。 	参考
2	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通スマートチャレンジ月間の認知度が低いのではないかと。地域公共交通を維持し、利用促進につなげていくためにも、利用することがどのような利点になるのかを周知する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通に対する県民の意識醸成・関心の更なる向上を図るため、実施期間の拡大等に併せて、効果的な周知方法を検討することを新たに計画に盛り込む。 	計画を一部修正

番号	意見（概要）	検討結果（概要）	対応
3	<ul style="list-style-type: none"> 乙部手代森地域から矢幅駅方面へのバスが新設されることを強く希望する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や通学、通院等の広域移動を円滑に行えるよう、広域的な公共交通の維持・確保に取り組んでいく。 個別の移動手段の要望については、関係者と共有する。 	参考
4	<ul style="list-style-type: none"> スノーポール、自転車専用レーンの設置。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全等に関する要望のため、関係機関に伝達する。 	その他
5	<ul style="list-style-type: none"> 運休していた千厩盛岡線が令和5年度末で廃止となり、今後は盛岡に観光や病院に行くことも少なくなると思う。消費は県外（仙台）に流れており、県が掲げているオール岩手をあまり感じない。 	<ul style="list-style-type: none"> 広域的なバス路線の維持・確保のための支援や、日常利用の増加に向けた利用促進などを進めることとしており、関係者と連携し、県民にとって必要な広域移動手段の維持・確保に取り組んでいく。 	参考
6	<ul style="list-style-type: none"> 客貨混載バスを増やし人手不足を解消。 道路整備の遅れている一関市大東町内で AI オンデマンド交通を進めてほしい。 今秋開業する道の駅だいを起点に、過疎地域（猿沢・興田）を結ぶ路線を開設し、買い物難民対策などを実施してほしい。 各種スマホ決済を導入してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 貨客混載の導入などの多分野連携については、「多様な主体・サービスと連携した地域公共交通の利用促進」として、AI デマンド、キャッシュレス決済等の導入等は、「交通 DX による地域公共交通の利便性・持続可能性・生産性の向上」として事業を位置づけ、関係者と連携しながら、地域公共交通の生産性向上等に取り組んでいく。 要望については、関係する事業者や市町村と共有する。 	参考
7	<ul style="list-style-type: none"> 3つの指標「広域的なバス路線1路線当たりの平均乗車密度」「広域的なバス路線の収支率」「広域的なバス路線への公的資金投入額」について、平均乗車密度や収支率の改善を目指す、公的資金投入額を減額するという目標となっている。目標数値の見直しを検討願う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「広域的なバス路線への公的資金投入額」は、国、県、市町村を合わせた公的資金投入額の過去5年間の平均額と同水準を維持することを目標としており、減額を目標としているものではないこと。 3つの指標は、関係者と協議の上、広域的な公共交通を適切に維持・確保していくための目標として設定したものであり、新たに運転士確保策を実施するとともに、バスの国庫・県単補助や代替交通への支援などを通じて需要に応じた交通手段で広域移動の維持確保に取り組んでいく。 	参考
8	<ul style="list-style-type: none"> 運行欠損額のバス事業者負担がなくなるよう、新規の支援・補助制度の導入（検討）を入れていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性や需要等に合わせた持続性の高い地域公共交通ネットワークの構築を図っていくとの方針の下、県や市町村による運行欠損額への補助や、県と市町村で支援のあり方の検討等を行うこと、利便増進実施計画の策定を通じ、路線の利便性の向上を図るとともに、国庫補助の特例措置を活用していくこと等を計画に盛り込んでおり、こうした取組により、持続可能な地域公共交通ネットワークの構築に取り組んでいく。 	参考